

ジャガイモと映画 (7)

<肉ジャガ>

Web ジャガイモ博物館館長 あさ ま かず お
浅間 和夫

『おふくろの味』と言う言葉がある。これが使われ始めたのは、太平洋戦争後の復興が落ち着き、田舎から都会に集団就職などで移動が増えた後からであろう。手作り料理を指すものであり、きんぴらごぼう、煮物、味噌汁、漬け物、カレーライス、コロッケ、おはぎなどいろいろあろうが、『肉ジャガ』に落ち着く人が多いようだ。

28 かもめ食堂

2006年、邦画。監督：荻上直子。

原作者は群ようこ。食材、料理、食べ物が中心となる珍しい映画である。

サチエ（小林聡美）はフィンランドの首都ヘルシンキで、にぎり飯などを出す「かもめ食堂」（写真1）を開いたものの近所の人々からは"小さい人のおかしな店"と敬遠されていた。



写真1 ヘルシンキの「かもめ食堂」

そんな折、日本かぶれの青年からガッチャマンの歌詞を聞かれて当惑する。町の書店で日本人女性ミドリ（片桐はいり）を見かけて、聞いてみると、即座に全歌詞を書き上げてくれる。ミドリを家に招き入れ、やがて食堂で働いてもらうことにする。ミドリを自宅に招いたとき、夕飯に花模様の器に入れた肉ジャガが登場する。ミドリの発案でシナモンロールを焼くと、いつも遠巻きに見ていた主婦たちがその匂いに釣られて来店し、その日を境に少しずつ客が入るようになる。

そんなある日、マサコ（もたいまさこ）という日本人旅行者がかもめ食堂を訪れてくる。空港で荷物を紛失して足止めを受けていた彼女は、荷物が見つかるまでの間、観光をしながらかもめ食堂へ度々来店し、そのうち食堂を手伝うようになる。

2016年4月になり、映画『かもめ食堂』の撮影が行われた正にその場所で、「Ravintola KAMOME（ラヴィントラかもめ）」というレストランがオープンした。

29 マッサン

2014年、邦画。制作総指揮：櫻井賢。

NHK連続テレビ小説。竹鶴政孝（マッサン（玉山鉄二））は、ある学校の醸造科を卒業後、摂津酒造に入社。1918（大正7）

年、スコットランドのグラスゴー大学に留学する。竹鶴は、ヘイゼルバーン蒸溜所での実習中、柔道を通じて開業医一家と親しくなる。長女で、後に妻となるリタ（テレビではエリー：米国人女優シャーロット・ケイト・フォックス）と親しくなり彼女を連れて帰国する。エリーは、御飯炊き、箸使いから始まり漬け物まで手作りし、人々から「日本人以上に日本人らしい」と評されるが、夫の「マサタカサン」という発音が難しかったのか、「マッサン」と呼んでいる。

大阪住吉酒造の世話になった後、摂津酒造に勤務。その後そこを退社し、文無しに。

エリーは家主の娘達の英語教師やら寿屋（現サントリー）の社長鴨居欽次郎（堤友一）を助け通訳などもする。マッサンはここに入社でき、山崎工場が完成し、エマ（住田萌乃）と呼ぶ子を養子とする。

ドラマ第13週『急いては事をし損じる』の12月22日のシーンでジャガイモが出て来る。エマには食べ物の好き嫌いがあり、特にニンジンが嫌いでエリーを困らせる。マッサンはエマに甘く、共謀して肉ジャガのニンジンを食べたふりをしてエリーの足を引っ張るシーンがあった。

10年の契約期間が過ぎ、まもなく40歳を迎えようとしていた竹鶴は、昭和9年3月に寿屋を退社。同年7月には竹鶴がウイスキーづくりの理想郷と考えた北海道余市町に「大日本果汁株式会社」を創立し、リングジュースや果汁ゼリーを製造してウイスキーを熟成販売できるまでの繋ぎとする。

昭和15年10月、ようやく第1号ウイスキーを出荷でき、社名を「ニッカ（日果）ウヰスキー」とする。その後、「スーパーニッ

カ」、「ハイニッカ」などをヒットさせ、全国ブランドへと成長していく。理想のウイスキーづくりにこだわった男は、1979（昭和54）年85歳で亡くなるが、病床でもウイスキーのグラスを離さなかったと言われている。

30 はぐれ刑事純情派（第5シリーズ）

1992年、邦画。制作：テレビ朝日、東映。

勝木と言うところにある寺の縁の下に不審な行動をする男がいた。その男はシリーズの主人公安浦吉之助（藤田まこと）巡査部長であり、1本の歯を見つけて出てくる。これで彼の予想通り『エデンの園』の松本は星ではないと確信し、公衆電話で山手中央警察署長（梅宮辰夫）に報告すると、すでに事件は解決していた。電車で帰り、署には寄らずに家に直行すると、次女ユカがおり、翌日の遠足に持参する『肉ジャガ』のためとジャガイモとニンジンを煮ているシーンが現れる（写真2）。こんな早い導入部にジャガイモに出会えるのは筆者にとって想定外のラッキーなことである。

長女のエリはデートで不在。彼氏と別れた後、暴走族に絡まれ、ようやく逃げ切ったと思ったところ、トラック野郎の大沢（小西博之）が近寄ってくる。しかし、エリを



写真2 ユカが作っていた肉ジャガ

助けるためであり、足を挫いた彼女を背負って安浦家まで届けてくれる。

粗野だが純粋な大沢はエリが好きになり、安浦を勝手に『親爺』と呼ぶ。彼の父親には犯罪歴がある。大沢の妹も上京して友達と同じアパートに住んでいる。そこに出入りしていた佐々木と言う男が殺される。前に大沢と揉めていたことから、刑事課長は犯人は大沢であると直感する。しかし、安浦は正義感の強い彼ではないと確信している。課長の指示で発砲された銃弾が大沢に当たり、救急車に収められる。見送る安浦は、「あいつは必ず又来る」と口にする。姉に理解あるユカも応えて、「親爺ってね」とドラマをメる。

31 深夜食堂：第二部第十九話「肉じゃが」

2017年、邦画。監督：松岡錠司。

人情漫画『深夜食堂』シリーズは、安倍夜郎によるもの。第十九話のあらすじは、別々に男相手に結婚詐欺を繰り返していた姉妹が深夜営業の食堂『めしや』で遭遇してしまい、その後仲良く？逮捕されるというもの。見所が多く、面白い1編。沢中健三が『めしや』の通りでサクスを吹いたり、マリリン（安藤玉恵）が『めしや』に来たり、バースデーケーキを配達するノリ



写真3 牛肉が使われていた肉ジャガ

子（前田亜季）が配達先を間違えて『めしや』に来たのが縁で、以後たまにケーキを持って顔を見せるようになったり…。

ある日、お客の金本（金子清文）が嬉しそうに千秋（東風万智子）を連れてくる。千秋はマスターの肉ジャガ（写真3）に牛肉が使われていることに少し驚き、自分の家は貧しかったため、肉ジャガには豚肉が使われていたと話す。常連の女性客は、バツイチの金本に美人が一緒なことに金が目当てではないかと違和感を感じている。

『めしや』のマスター（小林薫）は、時々肉ジャガを多めに作ることがあるようだ。そしてバースデーケーキのノリ子はその後も店に2、3回来るのだが、ある日などは誕生日のお祝いではなく「三代目龍名 おめでとうございます」と書かれたプレートを付けて来る。『龍名』ではなく『襲名』が正解で笑わせてくれた。